

事業		確認事項	検討すべき課題
	○目的	<p>①集団回収を介してコミュニティを活性化は無理。特に住宅街に関しては、つながりを拒否するところも多く、関与されたくない。また、高齢住宅、働いている若い世代で、集団を作ることは無に等しい。やるとすればコミセン。しかしコミセンも個性あるので行きにくいのが現状。 (A委員)</p> <p>①集団回収の原点である地域コミュニティ化を積極的に進める。従来の地域型のみならず、近年増加している集合住宅においてもその中でコミュニティ作りを行政として指導して行く。 (B委員)</p> <p>①30年続いてきた集団回収グループが高齢化によって一つ、二つと消えて行っている例を見てきている。何を意味しているのか。これから地域で安心・安全な生活を送るためには、地域のコミセン・福祉の会・防災・ごみ問題・防犯等の関係諸団体が有機的につながり、地域コミュニティをつくっていくことこそ一番求められていることである。市民の思いだけでは難しく、そこに行政の本腰を入れた協力が加わって実現させ、そこに集団回収という具体的な活動を入れていけば一挙両得である。 ②集団回収率を5年後には100%をめざす。 (C委員)</p> <p>①近隣の人とのコミュニティづくり。 町内会がなく、現在コミセンと福祉の会を中心にコミュニティづくりをしているが、これによって全ての人と接点を持つことは難しい。これを集団回収で特に近隣の人がつながり、助け合いが進むことを願う。 ②行政の古紙回収は月1回にするということを5年後の目標にしたい。 (D委員)</p> <p>①新聞は取っていないので、集団回収とは縁がありませんでした。身近な所にお年寄りや一人暮らしの人が何人もいてよくお世話をしております。高齢化が進む中で地域でお互い助け合ったり声かけあったりする事がとても大事になると思います。今地域にコミセンがあり、又福祉の会や防犯の会、そして環境問題と活動団体が沢山あります。その様な活動団体をつなげて活動して行く中に集団回収を入れていったらいいと思います。そこに補助金で出るのなら、お世話する人のお手当てにしたり、コミュニティづくりのために活動費について使っていったらいいと思います。 (E委員)</p>	<p>○地域コミュニティの創出・拡充について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集団回収の原点である地域コミュニティの拡充に向けどのような取り組みを行うか。 ・「集団回収を介してのコミュニティの醸成」と言う視点は現状において有効であるのか。 ・集合住宅における集団回収は必ずしも地域コミュニティの醸成にはつながっていかない。どのように対応すべきか。 ・団体の「高齢化」への対応方法について。 ・福祉・防災の観点も含めた行政の支援の在り方について <p>○集団回収事業の拡大について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集団回収事業は拡大すべきか ・集団回収率を拡大するための具体的な方策について
集団回収	○補助金の在り方	<p>①住宅街でやるとすれば補助金アップ…とは言っても期待はしやすい。マンション…意識は薄くても、関心をもってくれるためにはかなり必要。 (A委員)</p> <p>①回収実績の少ない資源品目には、補助額の増加を検討する。 (F委員)</p> <p>①補助金は行政回収よりも安く、当面現状でOK。 (B委員)</p> <p>①そこに支払われる報奨金(がいい)は集団回収の世話人の手当、またコミュニティづくりのための活動費として使われることが望ましく、10円/kgは据え置きでいい。マンション等集合住宅の場合は7円と差をつけてもいいのではないかと。 (C委員)</p> <p>①行政の回収頻度が減れば、集団回収に参加する人が増えると思う。ただし集団回収の拡大を妨げているのは、世話役がないということなので、世話役に対して仕事として認め手当をきちっと出すことがカギ。私は現在自分の通りだけ、約20件で集団回収をやっているが、これを丁目全体の人がやれば100万円くらいの補助金が入ると思う。一般参加者個人はそんなにたくさん見返りを希望しているわけではないので、あとは地域でコミュニティづくりに役立てたら効果的だと思う。 (D委員)</p> <p>①10円/kg 高いか安いかは、お金の使い方だと思います。 (E委員)</p> <p>①マンションにて回収を進めていく場合、どの補助金の設定に関して、少し細かい設定(規模等)を行う必要があると考えられる。 (G委員)</p> <p>①キャッシュではなく、むちゅー券や市の野菜交換券等、回収参加を通じた市内マネー循環を後押しする仕組みにする可能性の検討(キャッシュよりも還元率を高めることも可能になる) (H委員)</p>	<p>○補助金の在り方について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・補助金額は適正かどうか ・補助金額を増額(減額)する場合、どのような要件が必要か ・補助金以外に団体の活動を支援する方策の検討
	○事務手続き	<p>①いつでも手続きできることが必要。 (A委員)</p> <p>①事務手続きは簡略化するのはいい。それに伴って集団回収のあり様までマンネリ化しないよう気を付けていくことが必要である。年に1回位は気分を一新することも含めて団体間の交流をもつことを考えてはどうだろうか。 (C委員)</p> <p>①手続はできるだけ簡素化する。但し補助金の使い方については内容報告するようにし、コミュニティ作りなど正しい方向に使用されるよう指導する。(特に集合住宅について) (B委員)</p> <p>①団体の事務手続きの簡素化 団体の事務手続きは簡素化した方がよいが、今も市に提出するものはそんなに大変ではない。ただ会の中で使い方を話し合ったり、透明にしたりは大切。グループの情報交換とか、いいやり方をしているところを事例紹介するお便りがあつたら、影響を受けて楽しくやれるかもしれない。 ②行政事務の簡素化 行政事務がどのくらい大変なのか実情を知らないが、いずれにしてもごみのことで行政の負担を増やしたくないのでなるべく簡単にしてほしい。 (D委員)</p> <p>①集団回収に興味を持つコミュニティへの情報提供をオープンにするとともに、手続きをいかに簡素にするか。 (G委員)</p>	<p>○事務手続きについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手続きの簡素化について ・団体間の交流について ・集団回収に興味を持つ団体への情報提供について

	○その他	<p>①回収品目の拡大 品目に応じた補助金の設定見直し・・・よく集まるものは安く、集めにくいまたは高く設定する。 (F委員)</p> <p>①始めたきっかけは良かったと思いますが、年月を経ると共に起きた問題点として高齢化、後継者不足など、また新聞の販売店回収となると旨みがないと言う事を耳にします。 (I委員)</p> <p>①子どもが小学校の時はPTAの集団回収に参加していた。卒業後も回収場所が見えていたので継続していた。住宅がオートロックのマンションに建て替えられたあとは、回収場所がわからなくなり中止した。 ②実際には担当したことがないので、補助金は子どもの教育環境に還元される程度にしか認識せず。また、事務手続きについてはわからない。 (J委員)</p> <p>①小学校の学区単位での回収 ②(大規模)マンション単位での回収 (G委員)</p> <p>①ターゲット属性の整理 住居環境に応じて、集団回収への負荷は異なるため、分類した上での検討が必要ではないか。 例：分譲大型マンション、社宅、戸建住宅… 属性に応じて、集団回収に参加しようとするインセンティブは異なるのは当然だと思ふため、マンション管理費や自治会費に回すことを意図したとしても、市代行による市税負担よりも低額に抑制した補助金であれば良しとし、集団回収を進めるべきか否かを検討する意義はあると思う。ごみ処理に回す税金抑制と言っても賛同は得られるものの、行動に結びつけるには具体的なインセンティブが必要になる為である。税金負担を少しでも軽減し、活動参加者にはベネフィットが多く回すよう、下記の補助金形態の拡充検討も併せて行いたい。 ※大型分譲マンションにはむちゅー券対応にして、備品は商店会で購入してもらうよう促すなど (H委員)</p>	○その他 ・回収品目の拡大(廃食用油等) ・集団の属性により異なる支援方法の検討
	○支援	<p>①早朝でも、夜間でも回収箱があることが回収アップにつながる。働いている者にとっては、営業時間内に持って行くことは困難。 (A委員)</p> <p>①店頭回収事業者拡大の為の支援(回収BOX・収集運搬協力会社の案内、紹介など) ②市民への啓蒙活動の推進(市が中心となってPR) ③店頭回収事業者へのインセンティブの検討 (K委員)</p> <p>①積極的に進める。 ②集団回収と同程度の補助金も出す。 (B委員)</p> <p>①私はタッパーを持って買い物に出かけます。魚や肉そしてお惣菜も出来る限り量り売りをしている所を探します。スーパーではだか売や量り売りのコーナーが出来るように働きかけたいと思います。スーパーでは発泡トレーより透明トレーが使われている方が多いです。今の3ボックスに加えて透明トレーを置いてもらえるように働きかければ良いと思います。そうすれば、その他プラの量がずいぶん減ります。そしてその他プラの袋の中は、同じ容器を重ねたり箱型のもものは四角を切って平らにして入れたり今の半分近くまで少なくなり、週に一回を二週に一回まで回数を減らすことが出来ると思います。販売店回収を徹底して行政回収をいずれ0にする方向にさぐっていき、出来るだけ税金を節約出来るようになればいいのではないのでしょうか。 (E委員)</p> <p>①事業者は自主的に回収を行っている現状の中、市民としてはきちんと回収ルールに則るべきであり、その意識を持たせる啓蒙活動は行う必要がある。 ②市としても、事業者に対する補助を考える必要があるのではないかと。 (G委員)</p>	○店舗への支援方法 ・店頭回収実施店舗への直接的な支援について ・回収事業者数を増やすための方策について ・実施店舗での回収量を増やすための方策について ○店頭回収への参加者を増やすための方策について ・情報提供について ・利便性の向上について
	○回収品目の拡大	<p>①原則当該店舗で販売していて、資源として行政回収している品目についてはすべて、回収ボックス等を設置してもらおう要請をする。 ②店頭回収店のPRを市で逐次行い当該店での買い物を推奨する。 (F委員)</p>	
	○ペットボトルの発生抑制 →マイボトル・マイカップを推進	<p>①排出されてしまったものは店頭回収の徹底。 ②店頭回収を徹底させるために、2年後には行政回収を2週に1回にし4年後には、1カ月に1回とし、5年後には行政回収を0にする。 (C委員)</p>	
	○その他プラ→市民・事業者共に発生抑制に努力する	<p>①現在の店頭回収ボックスに透明プラ用ボックスを1つ増やし(内容を精査する)店頭回収を徹底していく。 ②回収量が増えて、作業が増えることは目にみえている。その時行政も市民も支援が必要になることは考えておかなければいけない。 (C委員)</p>	
	○回収する店を増やす ○回収する品を増やす ○行政の回収頻度を減らす	<p>①とにかく消費者は使わなくても生活できるペットボトルなどは極力使用しないという運動をしながら、ペットボトル、発泡スチロールトレイの店頭回収を実行する店を増やすこと、さらに透明トレイの回収も進める運動をする。その先にメーカーとつながることを最終目標としながら。 ②容器包装プラ資源ごみ回収 週1 → 月2回に (D委員)</p>	
	○ペットボトル ○卵パック	<p>①マイボトル運動をおし進めて行く事からペットボトルは店頭回収を数年かけてすすめてゆきたい。 ②玉子パック透明も店頭回収を押しすすめていきたい。 ③透明トレーの店頭回収を押しすすめていきたい。 ④発砲トレーの店頭回収を押しすすめていきたい。 (E委員)</p>	

店頭回収

その他	<p>①店頭回収か自治体回収かは、社会全体の費用（自治体+企業+消費者）が最も少なくなるルートで回収するべきではないか。</p> <p>②トレイや牛乳パックを自治体が回収・リサイクルすると企業による回収・リサイクルと比較して費用は高くなると予想されるのか？</p> <p>③「トレイなどは自治体が効率よく回収し、企業は費用負担する」という仕組みでも拡大生産者責任（社会的責任？）を果たしたことになるのではないか。</p> <p>④トレイや牛乳パックが重要なリサイクル品目なのであれば、自治体がトレイを分別回収することは考えられないのか。ごみ処理量も減るのではないか。また回収量も店頭回収よりも増えるのではないか。</p> <p>⑤A社のトレイ・ペット・牛乳パックはA社で回収するのが拡大生産者責任の原則なのでは？トレイなどは、どの会社から購入したものは事後的には見分けがつかない。A社のトレイをB社に持ち込むことについて事業者間で何らかの合意が必要になるのではないか（特に本格的に進める場合）。</p> <p>⑥自治体でのびん・缶・ペットの処理費が高いとのデータが以前示されたように思うが、びん・缶・ペットの店頭回収を特に強化する政策はありうるか。（I委員）</p>	<p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・店頭回収の意義について ・この事業に対する阻害要因は何か、その要因はどうしたら取り除けるか ・店頭回収において、他の店舗で購入したものが持ち込まれることへのコンセンサスについて ・回収品目の拡大について ・店頭回収促進への動機付けとしての、資源ごみの行政収集頻度の減の検討
	<p>①店頭回収している店やECOパートナーの店を利用することが市民の支援ではないか。</p> <p>②事業者の負担が大きいことを初めて知った。事業者の自主性に委ねられている分、事業者が回収活動から撤退した時が問題になると思う。店頭回収を維持、推進させるために事業者が市に望む支援はどのようなものか知りたい。（J委員）</p>	
	<p>①店頭回収は極力徹底する。</p> <p>②ペットボトルは週1回を月2回か1回にし、最後はゼロを目指す。</p> <p>③自販機（街中）の側には回収ボックスを設置することを義務づける。</p> <p>④大型スーパーは回収ボックスを4種類（ペットボトル、トレイ、牛乳パック、缶びん）設置すること。吉祥寺はアトレ、デパートなど回収ボックスなしです。透明プラスチックの回収のボックスをぜひ増やして欲しいです。年々便利なプラスチックが生産され、消費者は購入しごみが増えてしまう。発生抑制の徹底は難しいと思うので店頭回収が必要。（I委員）</p>	

総括的な課題の整理 事業の拡充に向けたあり方・仕組みを考えるにあたっての大枠の整理

事業		確認事項	
新聞販売店の自主回収	○支援	①新聞店に感謝。店によってトイレトペーパーを置いたりしているが、その格差をなくすために市との共通理解、回収袋の補助金を出すべき。（A委員）	○新聞販売店の自主回収事業の支援方法について ・行政による支援について ・市民による支援について
		①積極的に進める。 ②新聞古紙の行政回収ゼロを目指す。（B委員）	
		①事業者への支援を行います。回収が無理な場合は自分から販売店へ返却する。私の場合は毎月の集金日に新聞を持ち帰ってもらってます。（I委員）	
	○自主回収方法	①企業責任として自主回収は行っているが、その頻度等に関して問題がある場合、市としても事業者に対する補助を考える必要があるのではないか。（G委員）	
		自主回収の増加を図る上で、次の2つを別々に考えるべきではないか。 ①多くの新聞販売店に自主回収に参加していただくための政策（報奨） ②参加している新聞販売店の回収率を高めるための政策（報奨）（L委員）	○回収方法について ・より多くの新聞販売店が参加できるようになるための方策 ・事業に参加している新聞販売店の回収率を高めるための方策 ・この事業に対する阻害要因は何か、その要因はどうしたら取り除けるか
		①自主回収の方法を従来の、古紙回収業者のみではなく、宅配時での同時回収（1部配達時に1部回収する）等、新聞社や販売店に検討を要請する。 ②コンビニや書店等、新聞販売店以外で、新聞を販売している店舗にも回収ボックス設置等の協力を要請する。（F委員）	
①新聞販売店の自主回収を徹底する。現在は新聞チラシだけを回収しているが、読売新聞は雑誌も可としているが、どうなのか。 ②行政の新聞回収を2年後には2週に1回にし、5年後には1月に1回にする。 ③古紙の価格が下落した時行政の支援をどうするのかは今後の課題。（C委員）			
①新聞・チラシを集団回収に出していない人は極力販売店回収へ ②新聞チラシの行政回収はゼロに（できれば2年後）（D委員）			
その他に考えられる回収方法	○郵便はがきの回収	①年賀はがきを期限付きで回収していますが、暑中見舞い、転居通知など一年中はがきの需要があるので、せめて年間回収ボックスを郵便局に設置してもらえないでしょうか。（I委員）	○その他に考えられる回収方法 ・回収拠点のバラエティの拡充について ・新たな拠点回収及びその他の回収方法について
	○宅配業者	①宅配業者による資源物等の回収を事業者に対して依頼する。（G委員）	
	○拠点バラエティの拡充	①生活動線に密着しつつ、管理の目が行き届く回収場所の設置検討 ※スーパーやコミセンでの回収は、日常生活で多く利用する市民には便利だが、就学・就労で家を空けがちな市民には縁が薄く、利用しにくい。 ↓ ＜案1＞自転車駐輪場でのいなげや型PET回収機の設置 X本以上回収でむちゅー券発行などのインセンティブにする。これは、集団回収でインセンティブを受けられることと同意義という視点) ＜案2＞保育園や幼稚園など、親が送迎する子供の施設への設置 無責任なボイ捨てを回避し、良質な資源として回収できるよう目の届く範囲での設置を検討する。インセンティブは、園への「むちゅー券」発行など、園生活の備品購入に繋がるもの（H委員）	

各主体の活動を受けた行政収集の見直し効果の確認対象の整理(*可能性の確認)			
対象	項目	確認事項	
全体	○地区の細分化	①現行の8地区割を人口に応じた10地区に再編する。 (隔週品目を導入しやすくするため) (F委員)	○行政収集の平準化について ・収集の地区割りの再編について ・分別品目の見直しについて
		①各地区の世帯数、人口を捉えられないので市の側で検討していただきたい。 (J委員)	
	○収集開始時間	①開始時間を早めて、9時から8時にする。 8時～9時までは通学ルート避けるなど、収集ルートを考慮する。 (B委員)	○収集開始時間 ・行政収集の開始時間の見直しについて
		①8時からの収集開始を検討する。 (F委員)	
		①収集事業者さんから車が混雑してからの収集はコスト高になるから収集開始を早めてほしいという希望があった。ごみを出す側は、高齢者や学童がいるか家庭では朝9時も早くてきつい面がある。特に当日しかごみを出せない集合住宅には9時前の回収はきつい。高齢者の場合はごみが少ないから毎日出す必要がないのに習慣で出していることもある。ごみを自宅にためることにためらいがあるが減量の観点から見直す必要がある。夏場は厳重に冷凍して出す回数を減らす知恵もある。 (J委員)	
	○資源ごみ有料化	①減量効果を見極める必要がある。 (F委員)	○資源ごみの有料化について ・有料化する品目について
		①資源ごみの中で経済的に資源として価値のあるのは新聞紙、段ボール、アルミ缶ぐらいである。その他は基本的には有料にすべきである。考え方としては個別にかかる費用を算出し、市と市民で比率を考慮して負担する。 (B委員)	
		①その他プラの排出量が年々増加の一途を辿っている現状で対策なしで有料化の意味はない。全項で述べたような対策をとり、かつ2週間分のその他プラをすき間なく1週間分の袋と同じ位の袋に詰めて欲しいという状況をつくってから有料化の検討なら意味があると思う。 (C委員)	
		①現在はあまりメリットがないので進めなくてよい。 (D委員)	
		①市のごみ袋を分別するコストの資料の提出があって問題は単純でないことを知った。有料化を実施している市の資料ではおおむね減量されているが、分別の意義がうすれている心配はないのだろうか。 (J委員)	
○資源ごみの最適処理 ①現在資源ごみは紙系(1.新聞古紙 2.雑誌 3.雑紙 4.段ボール古紙)、びん缶系(5びん 6アルミ缶 7スチール缶) 廃プラ系(8廃プラ 9ペットボトル) 10古布 に別れている。これら資源ごみの特徴を考慮しながら、アイデアを出し合って、収集方法や回数、有料化などを最適化する。いかに例を示す。 1. 新聞古紙：集団回収と販売店回収で行政回収ゼロを目指す。(当面は1回/月) 2. 雑誌：新聞古紙と同じルートで収集(読売販売店回収ではOK) 3. 雑紙：チラシ類などはできるだけ新聞古紙の中に入れる(了解が必要) 4. 段ボール古紙：行政回収分は専門業者に依頼(1回/月) 5. びん：有料化(1回/月)、紙バック代替できるものは使用 6. アルミ缶：行政回収分は業者または集団回収にまわす。 7. スチール缶：有料(1回/月) 8. 廃プラ：有料 9. ペットボトル：有料 10. 古布：有料 それぞれの項目について、各人がアイデアを出し合い実現可能なものから進めていく。 (B委員)			
○その他	①集団回収・店頭回収・販売店回収の労力によってどれだけ行政回収の回数が減らせるかの方向性がみえてきた時、車両台数、車両のまわし方、収集時間など全面的に見直すことになるのではないかと。 (C委員)		
	①どのごみについても消費者はとにかくごみを出さないこと、2R。メーカーは拡大生産者責任を念頭に置いて長期的な実行計画を立てることが大切。行政はごみのことは市が回収するのが当たり前と思っている市民に対して、「拡大生産者責任の考え方を折に触れ伝えて、消費者がごみを減らす努力をする」と同時に、メーカーが商品のごみまで責任を取り商品の価格に上乗せして、最終的にそれを使った消費者が負担する。行政の負担は税金を使って行われるものなので極力減らす」という意識改革をすることが大切だと思います。 (D委員)		
	①一般市民ではごみの有料化が理解されていないようで、有料にしているから回数を減らさないで回収すべきと思っている人がいます。生ごみ以外は回収頻度は減らすべきだと思います。 (I委員)		
	①当日回収のみの集合住宅に住む高齢者が収集時間に間に合わせるのが大変と聞いている。ごみを出してあげるボランティアがいたら利用したいか尋ねたい。 (J委員)		

分別	○分別の細分化	<p>①古紙類を新聞、雑紙、ダンボール、古布古着と別品目として回収することを検討 (F委員)</p> <p>①回収のしやすさを考慮して、分別を考え直す。 (例) 紙類とびん、缶は別の日にする。 (B委員)</p> <p>①プラスチック回収の種別を市民がすることは定着。しかし回収業者は大変。ものによって回収日を変更することは必要。 (A委員)</p>	○その他 <ul style="list-style-type: none"> ・分別品目の見直しについて ・収集頻度の最適化について ・新たなリサイクルルートの確立について ・拠点回収の受け皿の拡充について ・「拡大生産者責任」の制度への取り込みについて
	○分別の創出	<p>①小型家電や金属類の分別収集を現行コスト内で検討 (F委員)</p> <p>①ざつ紙の分類(可能性の検討) 雑誌と書籍は別にして回収し、古書として提携企業に有料引取りを依頼できないか? ※さらに発展したアイデアを挙げると、古着のように再利用を念頭に置いて換金可能な物品はあるのではないかと考えました。たとえば、ブックオフではおもちゃ・ゲーム・CDなどは有料で引き取るサービスがあります。こういったインフラを利用して、集団回収に取り組んでいるところだけでも再利用を見越した回収をかなえる現実性はあるのではないかと思います。0123やコミセン、保育園/幼稚園を集団回収拠点として、おもちゃ・ゲーム・CDを回収するというやり方も一つかなと考えます。 (H委員)</p>	
頻度	○頻度の最適化	①排出量が減少(重量ベース、容積ベースとも)している品目について、頻度減を検討する。 (F委員)	
		①くさらない、嵩ばらないもの(紙類、びん、缶、古布など)は自宅で保管可能なので、頻度減できる。 廃プラ、ペットボトルは嵩ばり、臭いもするので頻度を少なくすることは不可。 (B委員)	
		①行政回収の頻度減による減量効果の有無 行政回収頻度を減らせるもの ・不燃ごみ 月2回 → 月1回 ・容器包装プラ 週1回 → 月2回 ・資源ごみ 週1 → 月2回 ・新聞・チラシ 週1 → ゼロ (D委員)	
		①不燃物の回収が月1回でもいいのではないかと提案に対して、水曜日に集中しているので月1回にしても2回の時とコストに変化がないという分析があった。水曜日の集中を避けてコスト減にすることはできないか。 (J委員)	
		①いろんな方が月1回で充分ではないかと意見が多いです (E委員)	
拠点回収	○受け皿	①武蔵野市は市全体を網羅する町会がないのでコミセンをもっと活用したらどうか。 (J委員)	